

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成17、18年度採択)

中間評価結果(公表用)

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	集客地の活性化に資する、道路のホスピタリティ表現手法についての研究開発	東京大学アジア生物資源研究センター 教授 堀 繁	C

< 研究継続の妥当性評価 >

- ・ 2年間の調査研究において、事例集作成に必要な事例は収集されたと考えられることから、平成19年度は成果の取りまとめに注力するよう計画を修正する必要がある。

< 修正内容 >

1. 平成19年度は2年間の研究成果を整理の上、事例集として取りまとめて頂きたい。なお、事例集作成に必要な事例は既に収集されたと考えられるため、平成19年度に補足事例調査を実施する必要はないものと考えられる。

< 今後の研究計画・方法への指摘事項 >

事例集を作成するにあたっては、以下の点に配慮願いたい。

1. ホスピタリティ表現の分類で用いられている用語は、事例集利用者が理解しやすいようご配慮頂きたい。
2. エlement主義に陥らないよう、ホスピタリティ表現の組み合わせ方や場所との適合性、コスト、維持管理、使い方などについて言及して頂きたい。
3. 道路管理者の理解を促進するため、図やイラストを用いてホスピタリティ表現手法の留意点を説明し、事例の写真はホスピタリティ表現手法の留意点をどのように具現化したかの説明用として頂きたい。